

令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

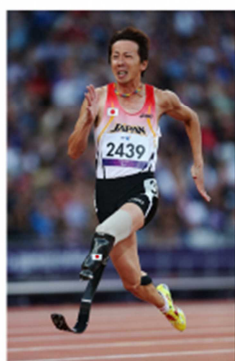
I	スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
II	マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
III	スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
IV	日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
V	スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 静岡県 】

学校名【 静岡県立小山高等学校 定時制 】

1 実践テーマ	I ・ II ・ III ・ IV ・ V (複数選択可)
2 実施対象者 (学年・人数)	小山高校 定時制 ・ 全校生徒 (29名 うち2名欠席)
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 () ② 行事名 (パラリンピアン講演会・実技交流会) ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> ・パラアスリートの経験を聴き、目標に向かって努力することの大切さを学ぶ ・パラアスリートとの交流を行うことで、ダイバーシティ（多様性）への理解を深める。 ・実技交流会を通じて陸上競技に対する興味・関心を向上させる。
5 取組内容	<p>○事前学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前年度に体育理論の授業でオリパラ教育、体育の授業でボッチャを実施 ・行事を告知するポスターの掲示

パラリンピアン講演会&交流会



講師紹介

はるた じゅん
春田 純選手 (42)

- 1978年 静岡県生まれ
- 15歳 骨肉腫で左足の膝下を切断
- 2010年 アジアパラリンピック競技会 出場 (200m 3位、400m 3位、4×100mリレー 3位)
- 2011年 **100m日本記録 (11秒95) をマーク**
- 2012年 **ロンドンパラリンピック競技大会 出場** (100m 出場、4×100mリレー 4位)

講演

春田選手の経験をもとに講演をしていただきます。

交流会

義足を間近で見たり、走り方の指導をしていただきます。



○講演会・実技交流会

- ・講師 パラリンピック陸上競技日本代表 春田純選手



春田選手の生い立ちや闘病生活での経験、競技との出会い、競技生活などについて講演をしていただきました。



現在所属している Xiborg での取り組み（義足の開発や競技用義足の提供）について説明していただきました。



義足の脱着を間近で見せていただきました。



切断した脚の先端に触れさせていただきました。



実際に使用している義足に触れさせていただきました。



講演会のあと、走り方教室を実施しました。



日常生活においても大切な姿勢の話をしていただきました。



最後に、記念撮影を行いました。

<p>6 主な成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> •パラアスリートの講演を聴き、障害者に対する理解を深めたり共生社会について考えたりすることができた。 •パラアスリートとの交流を行うことで、ダイバーシティ（多様性）への理解を深めることができた。 •交流会を通じて障害者スポーツや陸上競技に対する興味・関心を高めることができた。
<p>7実践において工夫した点（事業の特色）</p>	<ul style="list-style-type: none"> •定時制には、困難な状況のなか勉学に励む生徒が多く在籍する。障害を乗り越えて活躍するパラアスリートの経験を聞くことで、様々なことを感じ取ってほしいという思いからパラリンピアンを対象を絞って講師を探した。 •文化祭が縮小開催になったが、本事業と組み合わせることにより充実した行事にすることができた。
<p>8主な課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> •会計の処理（事務職員とのやり取り）に難しさを感じた。 •静岡県障害者スポーツ協会の協力があり、非常にスムーズに講師を依頼することができた。（事前説明会のグループ活動にて協会の存在を知ることができた。） 一方、日本パラリンピアンズ協会にも問い合わせをしたが返信がなかった。伝手がなく、いちから講師探しをした学校は苦労したのではないかと思う。ラグビー事業のようにあらかじめいくつかの選択肢があると、継続的な活動にしていくうえでのハードルが低くなるのではないかと思う。 •本事業は当初体育との結びつきが強いように感じていたが、実際に事業を実施してみて、道徳や福祉など様々な側面を持ち合わせていると感じた。特にパラリンピック教育の推進をしていくうえでは教科等横断的な視点を持つことで、より充実した事業になっていくのではないかと思う。
<p>9来年度以降の実施予定</p>	<ul style="list-style-type: none"> •体育事業内でのパラリンピック教育の充実 •本事業の継続実施 •静岡県障害者スポーツ協会「障害者スポーツ応援隊」事業の活用